

トピックス

- ・2018/3/2（金）…定時制 卒業証書授与式を挙りました。

「定時制 卒業証書授与式」

- ・3月2日（金）本校体育館において、第67回卒業証書授与式を挙りました。
- ・笑顔と涙に包まれながら、卒業生18名が本校を巣立っていきました。
- ・卒業生代表の答辞は心のこもった素晴らしい内容で、会場全体が感動の渦に包まれました。全文を掲載いたしますので、是非お読みください。



卒業生代表 答辞

卒業生代表（3年）

本日は私たち卒業生のためにこのような温かく晴れやかな卒業式を挙げていただきありがとうございます。また、お忙しい中ご出席くださいましたご来賓の皆さま、保護者の皆さま、並びに関係者の皆さまに、卒業生一同心よりお礼申し上げます。

3年前の4月、桜が咲くころ、私たちは津久井高校定時制に入学しました。はじめは「友達できるかな」、「慣れない環境でやっていけるかな」と、不安と緊張で胸がいっぱいでした。しかし卒業を控えた今、「あのころは幼かった」と笑いあえるくらいに成長をしました。

津定には定時制ならではの行事があります。ホテル観察会、夜に行われる体育祭、ボウリング大会などです。その中でも、高校生活で特に思い出に残っていることが2つあります。

その1つ目は、3年生の時の、文化祭です。1年生の時は野菜の販売、2年生の時はカフェとやってきましたが、どちらも当時担任だった先生に任せきりでした。なので、3年生で「やりたいことは自分たちでやれ」と言われた時は、正直戸惑いました。まずは、文化祭実行委員決めからスタートしました。それからお店の名前、値段、飾り、試食など、一から自分たちの手で作り上げました。

文化祭当日は、日頃接客の仕事をしている生徒も多く、スムーズな接客を行うことができました。お待たせしてしまったお客様には、サービスで商品を追加するなどの臨機応変な対応も見られました。商品が完売した時はとても嬉しく、今までにないほどの達成感を感じました。

2つ目は、学校説明会です。先生に「津定の紹介をしてください」と言われた時、「私でいいのかな」と思いました。私はもともと消極的で、人前に出て話すのが苦手でした。また、文章を考えるのも得意ではないので、他の人の方がいいのではないかと心配になりました。しかしこれは、苦手を克服するチャンスでもあると思い、引き受けることにしました。

それからの準備は、とても大変なものでした。文章を作るときやスピーチの練習をするときなど、相手にとって分かりやすい文章か、声の大きさや速さは適切かなど、相手の立場に立って考え工夫しました。何度も書き直しをし、やっとオーケーをもらい、準備万端大丈夫、と思っても、やはり本番は緊張しました。「もし失敗したら、間違えたら、噛んでしまったら…」と、プレッシャーが襲い掛かってきました。その時ある先生が緊張している私を見てこんな言葉をかけてくれました。

「練習は本番のように、本番は練習のように」

と、その瞬間心が楽になりました。今まで頑張ってきたのだから大丈夫だ、と

思えるようになり、プレゼンは大成功に終わりました。このような貴重な経験の中で学んだことがいくつかあります。「苦手なことは周りの力を借りること」、「苦手だと思いついで避けてきたことに、一度でいいから挑戦してみること」、「失敗を恐れないこと、失敗しても落ち込むのではなく、失敗を活かして行動すること」、「成功から学ぶことよりも、失敗から学ぶことの方が多くあるということ」

これらのことは、これから先もきっと、私の役に立つはずです。もしあの時先生に声をかけてもらえなかったら、身を持って学ぶことはなかったと思います。

これから私たち卒業生18名は、思い出の詰まった津久井高校を後にして、それぞれの道を、それぞれの歩き方で歩き始めます。この先、困難なことに突き当たり、失敗することもあると思います。そのようなときでも、うまくいかない理由を環境や人のせいにはせずに、前を向き、高校生活で得たことを活かしながら、自分の歩幅でゆっくりと着実に歩いていきます。

これまで、優しく、時に厳しく指導し支えてくださった先生方、今までたくさんの迷惑をかけた私たちを見守り続けてくれた家族、楽しい時を共に過ごした同級生、在校生のみんな。そんな、周りの人たちの存在がなければ私たちはここまで来ることは出来なかったかもしれません。本当にありがとうございました。

最後になりますが、在校生のさらなる活躍と、津久井高校定時制が人を成長させてくれる温かみのある高校であり続けることを期待して、卒業生の言葉とさせていただきます。

平成三十年三月二日